

本梅・東本梅保育所

認定こども園移行へ

亀岡、来春 園児数確保狙う



亀岡市の市立本梅保育所(本梅町)と東本梅保育所(東本梅町)は来春4月、保育所と幼稚園の機能を併せ持つ「認定こども園」にそれぞれ移行する。山間部に位置する両保育所には統廃合が議論された経緯もあり、保護者の就労状況などを問わず幅広く園児を受け入れることで、園児数を確保する狙いがある。

認定こども園は、保た保育所入所の要件に育と幼児教育を一体的当てはまらない家庭に行う施設。日常の家事子どもも受け入れること事以外の仕事をしていことができる。

▽求職活動を継続的に行っている―といっ

自然を生かした遊具で遊ぶ子どもたち(亀岡市東本梅町・東本梅保育所)

現在、本梅保育所は0～5歳の23人(定員50人)、東本梅保育所には市外を含む1～5歳の19人(同40人)が在籍している。

2016～18年度に

かけて市は、東本梅保にたたずむ立地を生か育所を廃止し、本梅保し、野外活動の充実を育所に統合することをアピールしている。ただ、本梅保育所との強い要望を受け、市は本年度、東本梅保育数の減少は避けられな所を豊かな自然体験をいとみられることか特長とする「森の自然ら、集団保育を維持でほいくえん東本梅」ときるよう、より門戸の開かれたこども園への移行を決めた。来春からは本梅保育所にも自然保育を導入し、市街地の園にはない魅力を強化する方針だ。

開会中の12月議会に、保育所をこども園に変更するための条例案が提案されている。

(上田真里奈)